

世界100カ国を訪れて

3

SDGsフォーラム
講師②

歌人・作家 田中章義 氏

最も影響を受ける子どもたち

松尾芭蕉が日本中を旅して『奥の細道』を著したのは300年以上前のこと。私は地球版『奥の細道』をつくろうと、これまで100カ国以上に足を運んだ。歌枕(題材)を探して世界中を歩いてみて、気付いたことが2つある。1つは、景色や環境があまりにも変わってしまっていること。例えば学校の社会科で大河があると習った場所へ実際に行ってみると干上がっている。もう1つは、あまりに多い路上生活の子どもたち。子どもたちだけで生活を送っている。人権問題の影響を最も受けるのは、高齢者であり、何より子どもたちなのだ。

安心して暮らせる場所を求めて

ここに1枚の子どもたちの集合写真がある。20年前にインドのある小さな村で撮ったものだ。ヒマラヤの山を子どもたちだけで1カ月以



インドの村にヒマラヤを越えてたどり着いた子どもたち

上かけて越え、村にたどりついたという。途中で息絶えた子どももいたようだ。仏教系の少数民族で、迫害から逃れるため、せめて子どもたちだけはと親たちに送り出されたのだ。ここなら食べ物がある、安心して眠ることができる。

その中の1人、カンマ君は当時13~14歳。彼は1度しかお父さんと会ったことがない。お父さんは出稼ぎでいつも家族と離れて暮らしていた。たった1度会った時にお父さんからもらったお守りを、彼は私にしてくれると言う。「そんな大事なものを」と断る私に、カンマ君は言った。「僕たちのような子どもがいることを世界中の人に伝えてほしいから」。私が子どもたちにスポットを当てる原点になった。

ケニアにキベラ地区というスラム街がある。小学生は赤い制服を着ている。一方で、学校に行けない子どもが大勢いて、満足に食べることもできない貧しい生活を送っている。学校へ通えるようになれば給食が食べられるのに……。ところが、校長を務める女性は私にこう言った。「給食より先に提供しなければならぬものがあります」。何だろう? 「まず学校の赤い制服を与えなければなりません」。なぜ? 「制服を着ていない子どもは学校へ通えない路上生活者と見なされ、誘拐の対象にされやすいのです」。校長先生はデータを示しながら語ってくれた。誘拐されれば臓器を取られ売られてしまう、児童労働を強制されるかもしれない。こうした子どもたちのことを1人でも多くの人に知っても